

S V A 宣 言

私たちの願い

SVAは、地球上の貧困や戦争、内紛、環境破壊、災害などによって苦しむ人々のそばに立ち、苦しみを分かち合いその人々と共に解決のための活動を行います。

そして「共に生き、共に学ぶ」ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指します。

平和な社会とは、すべての民族と人間の尊厳が保たれ、

国家や民族、宗教、言語、文化の違いを美しき多様性ととらえ、違いを称え合い、

争いは対話をもって解決される社会の事です。

SVAは、特にアジアにおける教育・文化活動を通じてこのような社会の実現をはかります。

それは、伝統文化と価値観に根ざした地域共同体を大切に、考える力や想像力を培い、

社会や生活の様々な問題を解決する力を養うことを意味します。



CONTENTS

SVA宣言 ~私たちの願い~	アフガニスタン	2	12,13
ごあいさつ、SVAのあゆみ	ミャンマー（ビルマ）難民	3	14,15
2005年度を振り返って、2006年度に向けて	緊急救援	4,5	16,17
タイ	日本	6,7	18,19
カンボジア	会計報告	8,9	20,21
ラオス	組織一覧、ネットワーク一覧、受賞歴	10,11	22,23

ご あ い さ つ

● 願いに生きよう

社団法人 シャンティ国際ボランティア会(SVA) 会長 松永 然道



今年3月10日、『泥の菩薩』が発刊された。『泥の菩薩』とは、SVA設立の中心となった人であり、日本のNGOを育てた仏教者、有馬実成の渾身の生き様を、当会の広報担当スタッフである大菅俊幸の目を通じて著わしたものである。昨年SVAは、設立25周年を迎え、今年是有馬実成の7回忌を迎える。私たちは、有馬がNGO活動の理念や仏教者としての生き方を、己が身命を賭して実行してきたことを真に見つめ、改めてまた身に染み込ませることが大切なのではないかと思った。

さて、昨年暮れからの大雪もようやく収まり、新学期を迎える季節になった。しかし、冬の終わりを告げる泥まみれの雪、無残に折れ散らばっている木の枝や葉っぱが、25年ぶりといわれた大雪の後を如実に見せていた。今年こそ少しでも明るいことが多くなって欲しいと願った新年だったが、この分だとまた厳しい一年が始まっているということなのであるか。

昨年を振り返れば、記念事業として「愛・地球博」に参加したり、チャイルド・ブック・サポーター制度を開始したり、そして10月にはパキスタン北東部で大地震が起き、SVAのアフガニスタンと東京事務所からスタッフが被災地へと向かい緊急救援にも取り組んだ。そんな悲しい出来事の中で、12月、世界遺産のアンコールワットを舞台に「アジア子ども文化祭」を企画・実行した。厳しい現状の中から這い上がり、明るく堂々と優雅に振舞う子どもたちの姿を目にしたとき、自分も未来への希望をいただいたような気持ちになった。そのことを心に刻み、26年目も果敢に、そして泰然として進んでゆきたい。

今年もまた、年次のご報告にあたってご挨拶を書かせていただく時期となり、温かいご支援を続けてくださっている方々に厚く御礼を申し上げます。26年目のこの年も、世界の子どものために、皆様と共に力を合わせていきたいと心より願っています。

S V A の 歩 み

1980年 SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議(JSRC)設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。タイ事務所(バンコク)開設。	1997年 北朝鮮食糧支援。
1981年 JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会(SVA)を結成。	1999年 「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。トルコ大震災救援、台湾大震災救援。「絵本を届ける運動」開始。
1983年 カンボジア難民への「慈愛の衣類を贈る運動」、日本各地で展開。	2000年 ミャンマー(ビルマ)難民支援開始。有馬実成元専務理事逝去。
1984年 初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。	2001年 インド西部大震災救援。アフガニスタン食糧支援。
1985年 タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。タイ・チェンカーン、バンコク・スアンブルースラムで図書館活動開始。「クラフト・エイド」始まる。	2002年 佐々木主浩投手(当時) SVA国際ボランティア親善大使就任。
1989年 タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。	2003年 アフガニスタン事務所(ジャララバード)開設。有馬実成著『地球寂静』出版。イラン南東部地震救援開始。
1991年 カンボジア事務所(プノンベン)開設。タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。	2004年 兵庫県豊岡市台風23号水害救援。新潟中越地震救援。スマトラ島沖津波災害救援開始。阪神淡路大震災10周年事業。
1992年 ラオス事務所(ヴィエンチャン)開設。「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。	2005年 三宅島島民帰島支援事業開始。愛・地球博「地球市民村」へ参加。
1995年 阪神淡路大震災支援活動開始。	パキスタン北東部地震救援開始。



2005年度を振り返って

活動ハイライト

25周年事業の実施

2005年は、SVAがカンボジア難民キャンプにおいて活動を開始して以来、25年目の年でした。ひとつの節目を迎えたこの年、SVAの活動の幹となり、各国で子どもたちの夢と希望を育ててきた「絵本～読み聞かせ～図書館活動」をテーマに掲げ、さまざまな試み、そして催しを行いました。

愛・地球博

7月、愛・地球博「地球市民村」へ参加しました。会場にはミャンマー（ビルマ）難民キャンプの図書館を再現、来日した現地スタッフによる読み聞かせの実演等を通じて、多くの日本の方々にSVAの活動を知っていただく機会となりました。

地域活動者のつどい in 仙台

10月に「地域活動者のつどい」を仙台市内で開催、作家の柳田邦男さん、絵本作家の伊勢英子さんをお迎えしてお話を伺った他、「防災に関する地域力」をテーマとしたシンポジウムも行いました。

第10回 アジア子ども文化祭

12月、カンボジアの世界遺産、アンコールワットにて、「第10回アジア子ども文化祭」を開催しました。新潟・中越地震やスマトラ島沖津波災害で被災した子どもたちを含め、7カ国から130名が参加、踊りや歌を披露し、人々に大きな感動を与えました。

チャイルド・ブック・サポーター

SVAが各国にて実施する図書館事業を継続的に支えていただく「チャイルド・ブック・サポーター」制度を7月から開始、サポーターへの参加呼びかけに積極的に取り組んでいます。

絵本コンクール

第2回目を迎えた「絵本コンクール」については、大賞該当作品はなかったものの、数々の素晴らしい作品が寄せられました。大瀧光さんとシェリー・ブウア・アフリカさんの2作品が入賞となりました。

開発協力事業の見直し、そして緊急救援事業への積極的な取り組み

海外における開発協力事業については、現地職員の人材育成と現地事務所への権限委譲をさらに進めた他、実施事業の評価、質的改善、経費の見直しにも努めました。また緊急救援の活動においては、パキスタン北東部地震の救援や三宅島島民の帰島支援、新潟・中越地震に関わる側面支援の継続等、積極的に取り組みました。

実施・運営体制の強化

国の公益法人制度改革に鑑み、健全な組織運営を目指して、社会的説明責任や情報開示（公益性）等の強化に努めました。また資金調達面においては、公的資金の占める予算割合を極力抑え、会費や寄附金等を中心とした民間資金獲得へと努力しました。

2005年の主な出来事

- 1月 国内事業一課・二課を統合し国内事業課と改称。04年12月に発生したスマトラ島沖津波被災地のひとつタイ・バンガー県にて移動図書館事業を開始。
- 2月 三宅島島民帰島支援事業開始。「絵本を届ける運動」のカンボジア向け絵本10,559冊とラオス向け絵本4,000冊を船積み。カンボジアにて「僧侶スタディ・ツアー」を実施。
- 3月 専務理事に秦辰也が就任。2004年度通常総会を開催。タイ・バンガー県での緊急救援事業を2005年12月末まで延長決定。
- 4月 SVAホームページをリニューアル。
- 5月 新潟・中越大震災救援活動終了。タイ、アジア子ども奨学金授与式。
- 6月 「チャイルド・ブック・サポーター」制度スタート。オリジナル絵本「小さな絵本の大きなチカラ」を発売。
- 7月 愛・地球博「地球市民村」にバビリオン「アジアおはなしの家」を出演、海外スタッフによる読み聞かせ等図書館活動を紹介。豊岡水害救援活動に対して兵庫県知事から感謝状を贈られる。
- 8月 第二回SVA絵本コンクールに132作品（海外からは96作品）の応募。「絵本を届ける運動」カンボジアモニタリングツアー実施。三宅島島民帰島支援第一期事業終了。
- 9月 日本郵船創立120周年特別展にてSVA図書館活動を展示紹介。
- 10月 「SVA地域活動者のつどい in 仙台」を開催、作家柳田邦男氏が基調講演。パキスタン北東部地震発生、救援活動を開始。
- 11月 第2回SVA絵本コンクールの表彰式。
- 12月 カンボジア、アンコール・ワットで「第10回アジア子ども文化祭」を開催。SVA通常代議員会を開催。

活動地域

活動地域

アフガニスタン・新校舎を前に子どもたちの笑顔が

日本・絵本の訳文貼り付け作業に挑戦

日本・東京

ミャンマー(ビルマ)難民・図書館員による読み聞かせ

ラオス・南部の小学校にて

カンボジア・第10回アジア子ども文化祭

タイ・津波被災地にて

パキスタン・被災地にたたく少女

アフガニスタン: ジャララバード、カブール、マンセラ、イスラマバード

パキスタン

ラオス: バヤオ、チェンカーン、メーソット、パンサーワイ

タイ: バンコク

カンボジア: プノンペン

Photo by 瀬戸正夫

2006年度に向かって

25年間のつながりを大切に、そしてさらなる「運動づくり・感動づくり」を求めて、2006年度は次の4つを重点目標として掲げ、活動に取り組みます。

活動理念・ビジョンを明示し、国内事業展開の再構築

さらに多くの方のご理解とご協力を広めるために、SVAが大切にしている活動理念やビジョンをより鮮明に表現していくとともに、クラフト・エイド、絵本を届ける運動、チャイルド・ブック・サポーターを中心とする国内事業の展開を再構築し、運動体としての機能を高めていきます。

事務局機能の再編成

東京事務所の運営を国内事業課、海外事業・企画調査課、経理総務課の3課体制とし、各事業間の連携、組織内のデータ管理、情報の集約、支援者の分析、より効果的な広報等に力を注いでいきます。

現地組織自立化の促進

現地組織の自立化に向けて、各国事務所・現地スタッフの管理能力を強化するため、人材育成を計画的に実施します。同時に、現地スタッフへの権限移譲を段階的に進めていきます。

民間資金を中心とする運営基盤の強化

公的資金予算の割合を極力少なくし、会費や各種寄附金を中心とした民間資金によって海外事業を実施するよう努めていきます。



タイ Thailand



Photo by 瀬戸正夫



Photo by 瀬戸正夫
各地のスラムで移動図書館活動を展開



「おはなし研修会」で手作り絵本を指導



初開催となった奨学生青年リーダー育成キャンプ

タイの2005年は着実な経済成長を遂げた一方で、反タクシン政権の動きが活発化し、政治的な不安定さを露呈した年でもありました。堅調な経済成長は、都市部での中間層をより一層生み出していますが、その反面、経済格差が確実に広がりつつあり、低所得層の生活はより厳しいものとなっています。また、子どもを巻き込む犯罪も少なくなく、都市スラムや農村、山地民などの子どもたちは身体的にも精神的にも危険と隣り合わせの生活を強いられているのが現状です。

2006年度、SVAは特に、奨学生青年リーダー育成キャンプや保育士研修会の開催、図書館活動のさらなる「質」の充実を図っていく他、タイ国内における広報活動、資金調達活動にも力を注いでいきます。

図書館事業

2005年度は、「おはなし」を中心とする保育士向けの研修事業を重点に、従来の活動地域以外にチェンマイ県など他地域へと活動を広げる予定でした。しかし、スマトラ島沖地震津波災害の復興支援活動において、図書館活動が重要な位置を占めることとなり、予定していた地域への拡張を延期しました。それでも、バンコク都市スラムや山地民が多く居住する北部パヤオ県、東北部の貧困地域であるルーイ県やスリン県においては移動図書館活動を222公演行い、その他、保育士を対象とした研修会を4回開催、312名の保育士に対して能力強化の機会を提供することができました。また、常設図書館では年間7万人余の利用者があり、9月に図書館を改築したスリン県バーンサイでは、図書館運営委員会が発足し、住民主体の運営へと移行しました。

2006年度は、対象地域をより困難な状況にある周辺郡と津波災害を受けたバンガー県にも広げ、「おはなし活動」を中心とする保育士向けの人材育成事業と幼児教育の向上のためのネットワーク化の促進に取り組んでいきます。

教育奨学金事業

2005年度は、一般奨学生450名に支給しました。また、10月には、初めての試みとして、「奨学生青年リーダー育成キャンプ」をメコン河に面したルーイ県チェンカーンで行いました。これは、ふだん会えない各地区の奨学生同士の交流や青少年リーダー育成を目的としたもので、本年度は40名が参加しました。

2006年度も450名に対する奨学金支給を継続するとともに、10月には支援者向けのモニタリングツアーや奨学生青年リーダー育成キャンプを実施します。

(表1参照)

表1 2005年度奨学金受給生の地域別一覧

活動地域	中学生	高校生	大学/専門	合計
バンコク都	65 (38)	33 (19)	3 (3)	101 (60)
スリン県	61 (42)	49 (36)	4 (2)	114 (80)
ルーイ県	59 (40)	52 (37)	4 (2)	115 (79)
パヤオ県	66 (57)	42 (24)	12 (6)	120 (87)
合計	251 (177)	176 (116)	23 (13)	450 (306)

()は女性の数

中高生学生寮の運営

前年度に引き続いて、パヤオ県とルーイ県で、遠隔地に居住し経済的な理由から学校に通えない中高生を対象とした活動を実施しました。寮生については、パヤオ県のシャンティ学生寮とルーイ県のチェンカーン学生寮をあわせて76名を受け入れ、スタッフ指導のもと、規律正しい寮生活を体験し、寮生主体の活動、周辺地域での活動などにも参加しました。2006年度も、引き続き2つの寮で80名程度の寮生を受け入れていきます。(表2及び図1参照)

国際交流及び研修事業

2005年度は、スマトラ島沖地震津波災害の支援活動のため、訪問者の受け入れを例年より控えさせていただくこととなりましたが、それでも一年を通じて年間950名余のご訪問をいただきました。海外研修制度では2名の大学生を受け入れ、長期ボランティア研修制度では1名の受け入れを行ないました。

また、7月には「大阪マイペンライ」から、11月には「大阪市職員労働組合民生支部」からタイ人スタッフを日本へご招聘を頂き、能力強化に努めました。

スアンプルー・スラム復興支援事業

2004年4月に大火のあったスアンプルー・スラムでは、2005年に入って復興計画がまとめられ、自助努力のグループと行政側が集合住宅を策定するグループとに分かれたまま復興が進められています。SVAでは、焼け跡地で仮設図書館の運営を行っており、住宅再建に合わせて、地域のセンター的な役割も果たすコミュニティ図書館と保育所の建設を進めています。

スマトラ島沖津波災害救援・復興支援活動

2004年12月26日に発生したスマトラ島沖の大津波は、タイ南部でも6,000名を超える命を奪い去りました。SVAはタイ事務所が中心となり、最も大きな被害を受けたバンガー県で直ちに救援活動を開始、被災者500人分の食糧や大型テント、給水タンク等を配布しました。また地域児童3,000名に対して制服や学用品なども贈り届けました。弘前大学地球環境学科及びCODE(海外災害援助市民センター)の協力のもと、タイ語絵本として防災教育教材「稲村の火」を出版しました。これは、日本の民話が題材となっており、被災地域の学校や保健所などに配布が行われています。

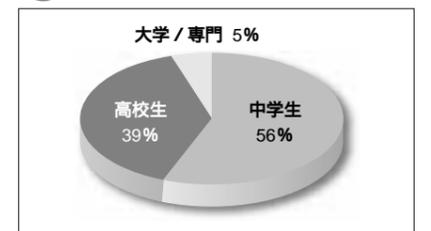
緊急対応期が過ぎた今、活動の中心は教育支援へと移行しています。2006年度以降は復興支援事業として2年間を目処に活動を継続し、子どもたちを対象とした「おはなしキャラバン」活動や図書箱の貸し出し、仮設・常設図書館の建設運営、被災地域児童を対象とした奨学金を提供していく予定です。

表2 学生寮の受け入れ状況

活動地域	名称	中校生	高校生	合計
ルーイ県	チェンカーン学生寮	17	10	27
	(メコン青年の家)	(15)	(10)	(25)
パヤオ県	シャンティ学生寮	26	23	49
		(15)	(12)	(27)
合計		43	33	76
		(30)	(22)	(52)

()は女性の数

図1 2005年度奨学金受給生の教育課程別構成



スアンプルー・スラムに再建される図書館・保育所



翻訳された「稲村の火」を手に(南タイ)



カンボジア ●●●●● Cambodia



読み聞かせに聴き入る子どもたち



建設した校舎、トイレ(後方) 井戸

カンボジアには毎年5億ドルを超える支援が国際社会から寄せられています。しかし都市と農村、貧富の格差は拡大し、国民の34.7%といわれる最貧困層の人々は依然として厳しい状況におかれています。

SVAはより困難な状況下にある子どもたちを支援するために、2004年度から新たな地域を活動対象にし、2005年度はさらにプノンペンのスラム地域での教育文化支援活動を開始しました。また、アンコールワットで第10回アジア子ども文化祭を開催、2006年度も引き続き当国の首都プノンペンで開催し、各国の子どもたちを受け入れていく予定です。

図書館事業

コンボントム州、バンテイミンチェイ州の150校に通う11万3千人の子どもを対象に活動を展開しています。2005年度は「おはなしと図書館活動研修会」を5回開催し、244人の教員、関係者を育成しました。また、11,274冊の絵本と540部の紙芝居を配布、絵本5タイトルを印刷しましたが、予定していた紙芝居3タイトルは資金調達の問題から来年度に繰り越しとなりました。移動図書館活動は、あわせて58ヵ所で行われ、15,135人の子どもたちと教員が参加しています。コンボントム州の教員養成学校に建設したモデル子ども図書館は、学校建設事業チームとの協働で行われた活動のひとつです。

2006年度は研修会、出版事業の他にバンテイミンチェイ州においてモデル子ども図書館を建設する予定です。

学校建設事業

コンボントム州、カンボート州で計画していた14棟の小学校のうち、12棟の建設が完了しました。3,471人の子どもたちと59人の教員が望ましい環境の中で勉強ができるようになっています。

校舎の他にトイレや井戸も建設しており、雨水をためる排水パイプを設置したり、汚水槽の位置を変更するなど、トイレの機能面の充実も図っています。建設校の学校運営能力強化のため、他校視察研修も実施し、14校4教育局から35人が参加しました。また、2004年度より遅延の小学校校舎1棟とカンボジア政府特別要請のサンロン中学校校舎1棟の建設も無事終えることができました。2006年は計12棟の建設を予定しています。(図2参照)

文化支援事業

2005年4月に宗教省と共同で、全国の州、郡の僧侶ならびに宗教教育局の代表者など134名を招いて、仏教教育の全体状況の把握を目的とした「仏教教育全国評価会議」を開催しました。6月には、クラチェ州にて東部4州を対象に「仏教と社会開発セミナー」を開催し、僧侶、宗教局代表など250人が参加、8月にはシムリアップ州の50か寺を対象に、寺院の概要と社会活動状況の把握

を目的とした調査を行いました。また、道徳倫理の図書(2タイトル各1万冊)を複製し、全国約4千の寺院、主要機関に配布しました。2006年度は、地方の寺院を中心とした文化自然保護活動への取り組みを始めます。

スラム教育文化支援事業

本年度から新しく始まったこの事業は、首都プノンペンの人口の2割以上、30万人を越えるといわれるスラムの中でも最大規模(人口5千人)のバサックスラムが対象です。小学校の就学率が90%を越えているプノンペンにありながら、いまだ半数しか学校に行けないスラムの子どもたちのために住民が立ち上げた粗末なコミュニティ・スクールには、保育所から小学3年生までのクラスに109名の子どもたちが通っています。

SVAが支援する伝統文化教室では、遺児を中心に38人が練習し、アンコールワットで開催された「アジア子ども文化祭」にも参加しました。2005年度は、教材文具や遺児への給食支援を行った他、不足していた教室を増設、2006年度には図書室と女性の職業訓練教室を開設する予定です。

アジア子どもの家事業

幼児教育の改善と困難な状況下にある子どもたちへの教育支援を目的に、1995年から「自治労」との共同事業として始まった本事業ですが、SVAの支援は今年度いっぱい終了し、今後はカウンターパートであるプノンペン国立幼稚園教員養成学校が活動を継続することとなりました。2005年度は、全国から本校に来ている生徒100名への寮費(給食)を支援しました。

アジア子ども文化祭

SVA設立25周年にあたる2005年、7カ国130人の子どもたちが参加して「第10回アジア子ども文化祭」を、初めてカンボジアの誇る世界遺産・アンコールワットを舞台に開催することができました。カンボジアはスラムと養護施設、タイはスラムと津波被災地域、ラオスは文化と教育のための子どもの家、ベトナムはハノイ・チルドレンズ・パレス、ミャンマーは各民族の伝統芸能選抜チーム、日本は地震で被災した十日町市、そして初参加となるアフガニスタンからはSVAのコミュニティ文庫からそれぞれの子どもたちが集いました。子どもたちは3日間の国際キャンプで寝食を共にして相互交流を深め、アンコールワットの大舞台で踊りや歌を披露し、人々に大きな感動を与えました。

2006年度はプノンペンで再度開催される予定です。



仏教と社会開発セミナー

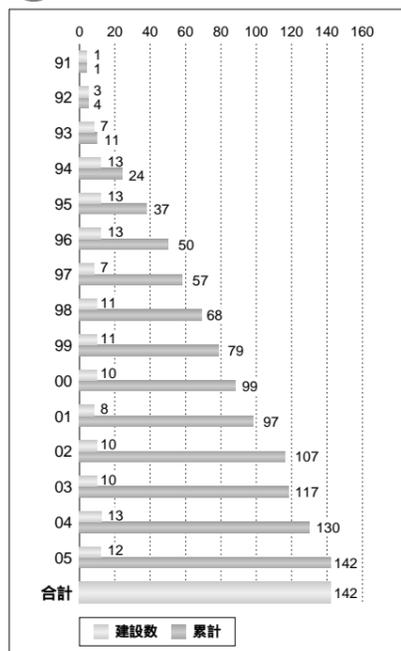


スラムの小学校で勉強する子どもたち



アジア子ども文化祭最終日のお別れパーティにて

図2 年次別小学校建設実績



表記以外に支援を行った修繕校舎：計20棟



アフガニスタン ●●● Afghanistan



青空教室で勉強する少女たち

アフガニスタンは現在、米軍や30カ国から派遣された国際治安維持支援部隊 (ISAF) と国軍によって治安を維持しながら、国際社会と協力して国家の再建に向かいつつあります。

2004年末にカルザイ政権の組閣が発表され、2005年10月にはアフガニスタン初の民主選挙による国政選挙が行われました。また、新たに設置された経済省が国内で活動するNGOを管轄することとなり、新NGO法が発令、この新法に基づき、国際・現地NGOの再登録手続きが開始されることになりました。現地NGOにおいては、基準を満たす団体が半数にも満たないと予測されています。

学校建設事業

2004年度に引き続き、ナンガハール州2郡において3校の学校建設を地域住民と協力して行いました。設計にあたっては、校舎の正面を朝礼などの学校行事に使用できるようステージの形状にデザインしたり、渡り廊下や中庭にベンチを設けたり、毎年少しずつ工夫が施されています。13教室中1教室は図書室として使用されており、学校建設が終了後は図書館モデル校となるように教員らと協力しつつ移動図書箱活動等を推進しています。2006年度については、新NGO法の適用状況も踏まえながら、より一層教育省との連携強化を図り、事業を展開していきます。



完成した小学校の前で

図書館事業

図書館活動事業においては、絵本出版、教員ワークショップ、移動図書箱活動、子ども図書館の活動を展開しました。絵本出版では、8タイトルの民話絵本に加え、初めて2タイトルの紙芝居も出版することができました。試行錯誤を重ね完成した作品は、現在各地の学校へと贈り届けられています。2006年度は、パシュトゥン語のみで出版していた絵本にダリ語版も追加し、さらに活動の場を広げていきます。

前年度に引き続き、2005年度はナンガハール州5郡24校の教員約1,000名を対象としてワークショップを開催し、研修後は出版した絵本を含む図書の配布を行いました。2006年度は、ジャララバード市内22校の学校において3年間計画で図書館活動を推進していきます。

コミュニティ文庫は、1日平均100名の子どもが訪れています。地域住民に理解を深めてもらうため、「母親参観日」、「タラナ (詩の朗読)」などを定例化させ、地域と密着した活動を行っています。また、経済的に困難な状況にある子どもたち、学校に通えない子どもたちを対象に識字教室や裁縫教室などの活動も実施しています。2005年12月には、コミュニティ文庫の活動に加わる子どもたちの中から5名が代表として選ばれ、初の「アジア子ども文化祭」参加を果たしました。2006年度は、名称を「子ども図書館」と改め、より多くの子どもたちが来館できるよう活動を充実させていきます。



図書館で折り紙に挑戦する子どもたち

研修事業及び緊急救援事業

2005年7月、図書館事業に関わる女性スタッフが「愛・地球博」に参加するため日本へ招聘され、多くの方々と交流を深めました。12月にはアフガニスタン人スタッフ2名がミャンマー難民事業及びタイ事務所を訪問、SVAスタッフ同士の相互交流を図り、様々な事業展開について学び合いました。

10月に発生したパキスタン大地震では、アフガニスタン事務所スタッフが当初の調査段階より関わり、緊急救援事業に携わるパキスタン人スタッフと協力して事業を実施しました。

今後も内外における交流・研修に積極的に取り組みながら、スタッフの能力強化に努めていきます。



SVA図書館でドラマを演じる子どもたち

安全対策

海外事務所の中で最も安全に配慮せざるを得ないのがアフガニスタン事務所です。残念ながら治安情勢は良好に向かっているとは言い難く、主に駐留する外国軍に対してのテロが相次いでいます。2005年5月、SVAは首都カブールに連絡事務所を開設し、大使館や各関係機関からの情報収集・交換を積極的に行いました。今後も安全に対する対策・方針を常に見直しながら活動を実施していきます。



教員ワークショップで折り紙の実践

表6 2003年度からの活動実績ならびに2006年度の活動見込み

実績指標	03年	04年	05年	06年 (見込)	累計 (見込)
1 絵本出版タイトル数	5	10	8	6	29タイトル
2 紙芝居出版タイトル数	0	0	2	2	4タイトル
3 教員向け研修 実施学校数	0	24	24	22	70校
4 図書館研修 受講教員数	0	800	1,000	1,120	2,920名
5 学校図書室新規設置数	2	4	3	3	12ヶ所
6 建設した小学校数	2	4	3	3	12棟

ミャンマー(ビルマ)難民

●●●●●●●●●● Myanmar (Burma) Refugees



図4



2004年10月にキン・ニユン首相が更迭され、ミャンマー国内の民主化への道のりは一層険しいものとなりつつあります。難民の帰還目処も立たず、新たな難民の流入が今なお続く状況に鑑み、タイ政府は難民の第三国定住を認め、アメリカや欧州10カ国、そして国連機関が受け入れの準備を始めました。第三国定住の対象は基本的には希望者のみであり、2005年末時点でその数は約2万人と報告されています。しかし一方で、多くの難民が母国への帰還を強く望んでおり、難民キャンプに留まり続けていることから、ミャンマー国内の民主化が早期に実現することが最も重要です。同時にキャンプ内の生活環境等の改善を図るため、タイ政府へ継続した提言を行っていくことも必要です。

2006年度は、UNHCRからの補助金が大幅に減額となり、今後の事業維持のための新たな資金調達が大きな課題となりました。事業においては図書館活動のさらなる質の向上、現地スタッフの能力強化を図ってきました。2006年度は第2フェーズ(2003~05年の3ヵ年計画)の終了年度であり、事業評価を行うとともに、次の展開について協議していくこととなります。

図書館事業

2005年度は、メラ難民キャンプで図書館1館の増築を行い、7ヵ所の難民キャンプにおいて計22の図書館を運営しました。(表7参照)特に図書館の運営母体である図書館委員会との協力体制の強化、図書館員の能力強化に努め、一層地域に根付いた図書館活動を目指しました。「子どもの日」や「母の日」、おはなしコンテスト、伝統楽器コンテストなど、地域の子どもからお年寄りまでを招いての特別イベントもより内容を充実させ開催することができました。運営に携わっている図書館委員会が活動への理解を深めてきた結果ともいえます。

2006年度はメラマルアン、メラウ、そしてバンドンヤン難民キャンプにて図書館の増築を行い、新たに3館の図書館を開館します。これまでのデザインと異なり、青少年の部屋も加える計画です。これまで保育園と小学校への移動図書館サービスを実施してきましたが、学校側からの要請もあり、カリキュラムへの公式導入も検討される予定です。

1 図書

2005年度は、新たに15タイトルのカレン語・ビルマ語翻訳絵本を、また大人向けにはビルマ語を中心とした16,177冊の図書を配布することができました。2006年度は、新たに30タイトルの絵本を配布する計画です。

2 出版

民話絵本そして文化活動に関する本5タイトルをカレン語、ビルマ語の2言語で出版しました。また、謄写版を活用した「図書館ニュース」が図書館委員会と図書館員の合同作業にて3ヵ月おきに発行されました。2006年度は、民話絵本を中心とした8タイトルの出版を行う予定です。



一心に絵本を読むキャンプ内の子どもたち



子どもたちも一緒に参加して(高齢者活動)

3 図書館員研修

2005年1月、元ミャンマー難民事業図書館専門家による図書館スタッフ研修を開催、また11月には第3回図書館員合同研修をメーソットにて実施しました。各図書館で行われている活動の紹介、問題点や今後の図書館活動のあり方について話し合いました。2006年度は「自治労大阪」からの専門家派遣が予定されており、引き続き図書館スタッフの研修を通じて能力強化を図っていきます。

4 高齢者活動

高齢者活動のメンバーになっている65歳以上のお年寄りを招き、各図書館にて、毎月、ヨガやゲーム、健康や地域社会の問題についての講演会等を行いました。また、子どもたちを招待してカレンの歴史や文化に関する「おはなし」を聞かせてもらうとともに、それらの民話を記録・編集して絵本として出版することもできました。

5 文化支援活動

各図書館において伝統楽器や伝統舞踊の教室を開催し、一教室約20名の子どもたちが活動に参加しました。キャンプ内で催された各種イベントでは、日頃の練習成果を披露する場も得られ、教室に通う子どもたちの大きな励みとなりました。

6 ミャンマー難民に絵本を贈る運動

5タイトル1,300冊の絵本を日本の協力団体の皆さまから届けていただきました。次年度は、10タイトル1,500冊の絵本を現地に届けていただく計画です。

7 タイ・カレン小学校での巡回移動図書館活動

2005年度は、難民キャンプ周辺の6郡において60校の小学校に50冊のタイ語の絵本の入った図書館を携えて巡回しました。

表7 2005年までに建設した図書館数

活動地域	難民キャンプ名	図書館数	合計
メーホンソン県	メラウ	3	22館
	メラマルアン	4	
ターク県	ヌボ	2	
	ウンビナム	4	
	メラ	6	
カンチャナブリ県	バンドンヤン	1	
ラチャブリ県	タムビン	2	



学び伝えられる伝統音楽(伝統文化活動)



出版された民話絵本の数々

人材育成事業

2005年度は、5月にコーディネーター2名がカンボジア事務所の事業を視察し、事業運営について研修しました。また8月にはスタッフセミナーを開催し、講師を招いてコミュニティ開発やリーダー育成について学びました。2006年度も引き続きスタッフの能力強化のため、各種セミナーの開催やSVA海外事務所での研修を実施します。



緊急救援 ●●●●● Emergency Relief



「ふれあい」のひと時・中越・川口町

2005年度は、前年度に発生したスマトラ島沖津波災害と新潟中越地震への取り組みを継続し、2月からは4年半にわたり島外避難生活を余儀なくされた三宅島島民の帰島支援をボランティアの方々とともに行いました。また10月8日にパキスタン北東部で発生した地震災害にあたり、アフガニスタン事務所と共同で被災者の救援活動を開始しました。

新潟中越地震救援事業

2004年10月23日に発生した新潟中越地震では、緊急救援期終了後も川口町の社会福祉協議会へのサポートを通じながら、仮設住宅や地域集会所における「ふれあいの場」づくり等を5月末まで行いました。また各市町村単位の復興への歩みの支えと、今後の災害に対する備えをも念頭においた広域レベルでの仕組みづくりや環境づくりを関係機関と協働しながら取り組んでいます。

スマトラ島沖地震・津波災害救援事業

2004年12月26日に発生したスマトラ島沖地震によるタイ南部の津波被害地区で、直後から緊急支援物資等の配布を開始。その後、被災した子どもたちへのこころのケアを前提に、仮設図書館の開設や運営、絵本の読み聞かせ、移動図書館活動等を実施しました。今後はタイ事務所の復興支援事業として、これまでの支援内容を含め、2007年末までを目処に現地の人々への移管が果たせるよう、受け皿作りとともに人材の育成を行っていきます。

詳しくは、「タイ」の活動報告・計画、7ページをご参照ください。

被災を受けたその他の国々～インドのタミル州では現地NGOの「ASAG」、インドネシアのアチェ州では現地NGOの「PPSW」、スリランカにおいては「れんげ国際ボランティア会」等を通じて救援物資配布、住宅再建、保育園支援等を実施しました。

三宅島島民帰島支援事業

2000年6月に始まった三宅島雄山の噴火から4年半が経過した2005年2月1日、火山性ガスの放出が続く中、念願の全島民避難指示が解除され、島民の帰島が始まりました。これを受け、噴火時から島民を支え続けてきた三宅島災害・東京ボランティア支援センターとともに、帰島支援活動を開始、人々のくらしの再建の第一歩を支える活動に取り組みました。SVAからは大学生を中心として65名のボランティアが参加し、島民との「ふれあい」をキーワードに引越し補助作業、除灰作業、カヤや竹刈り、苗場（庭先の菜園）の整備等の活動を行いました。

8月23日をもって終了した第一期支援事業後は、高齢化率の高い島の中で、島民ボランティアを中心にくらしの支えを行っていくことを目的とし設立された「みやげじま＜風の家＞」を通じて側面的な支えを継続していきます。



絵本の読み聞かせをするスタッフ・タイ南部



開所式を迎えた三宅島の「風の家」

パキスタン北東部地震救援事業

73,000名に上る死者と300万人もの住居喪失者を生み出したパキスタン北東部地震の発生に伴い（05年10月8日）被災直後から隣国のアフガニスタン事務所スタッフとともに救援活動を開始しました。さしあたって必要とされた食糧やテント、毛布、調理器具等を2区域450世帯に贈り届け、また緊急期以降は、被災者がくらしを再開していくために役立つと思われるミシンや大工工具、衛生用品等を再配布しました。

現在は、「こころの傷」を負った子どもたちが安心して過ごせる場づくり～チャイルド・フレンドリー・スペースを小学校単位で21棟設置（06年3月現在）しています。教員への短期研修が行われた後、順次開設されているこのスペースでは、冬季期間中も読書や読み聞かせ、ゲームやスポーツ等の諸活動が続けられています。今後は2006年6月末までを目処にこれらの活動を継続していく他、子どもたちの遠足等も企画・実施していく予定です。

大地震を想定した行動指針の策定

2006年度は、東海地震、南関東直下型地震を想定した救援活動展開案を整備していくとともに、NPOや各関係機関との協働を念頭においた日頃からのネットワークに積極的に取り組んでいきます。また、海外での大規模災害に迅速に対応していくために、現行の初動ガイドラインの見直しを行ない、モニタリング・評価システムの策定も開始します。

防災寺子屋 ～子ども防災教育～

地域に住む子ども、保護者、自治会や行政等、多様な住民組織の参加を促しながら、防災まちあるき&マップづくりを中心に据えた子ども防災教育、「防災寺子屋」を年3回程度を目標としてSVA災害支援サポーターや関係団体と連携しながら実施していきます。

SVA災害支援サポーター

近年国内で頻発する災害に備えて、「災害に強い地域づくり」をテーマに掲げた「SVA災害支援サポーター」が、全国の協力者有志によって立ち上げられました。今後は、防災・減災を目指した地域での諸活動、災害発生時における救援活動をSVAとの両輪で進めていく予定です。



多くの命が失われた中学校・パキスタン北東部



贈り届けられた仮設校舎を背に・パキスタン北東部



「防災寺子屋」を紹介するパンフレット



日本.....Japan



チャイルド・ブック・サポーター『オリジナルミニブック』

チャイルド・ブック・サポーター

これまでSVAは 図書館活動を中心とした教育支援活動を行ってきました。しかし、アジアにおいてはまだまだ「子どもたちが本に出会える場所」が不足しています。常設図書館・移動図書館の開設と運営、図書館員・教員研修、民話絵本出版等を通じ、各支援地域における図書館活動の充実を図っていくためには、継続的な支援が必要とされています。

昨年度、これら当会の図書館活動を総合的に支えていただくための制度、チャイルド・ブック・サポーターを設けました。2006年度は、一人でも多くの方に現状をご理解いただき、支援者（サポーター）となっていただくことを目指して、現地の図書館スタッフを招聘し、日本国内を巡回するキャンペーンを展開します。



仙台市内で開催された「地域活動者の集い」にて

会員・支援者との連携 ~地域活動者の集いin仙台、他

クラフト販売、絵本を届ける運動、海外スタッフの招聘等を通じ、会員・支援者との交流を深め、事務局と全国の支援者の顔の見える関係づくりに積極的に取り組みました。2005年10月には、東北地域の協力者のご尽力により「地域活動者のつどいin仙台」を開催、作家の柳田邦男さん、絵本作家伊勢英子さんのお二人に絵本をテーマにした講演会を、また第2部では「防災に関する地域力」に関するシンポジウムを行ない、活発な意見を交わす機会となりました。

2006年度は、運動づくりを軸とした国内事業をさらに発展させ、現地の事業運営を継続的に支えるより効果・効率性の高い事業への広がりにも努めていきます。



2006年度版クラフト・エイド新カタログ

絵本を届ける運動

2005年度分としてカンボジア、ラオスに届けた絵本は16,368冊となり、前年比約1,800冊増となりました。個人のほか、110校の学校と約20社の企業にもご参加いただき、ベルマーク教育助成財団からの助成や船会社による輸送支援も継続していただくことができました。2006年度は13,000冊を目標とし、タイトルの見直しやシステムの合理化、他事業との連動した運動づくりを目指して活動を進めていきます。

クラフト・エイド及びリサイクル・ブック・エイド

2005年度は、売上額が予算比の84%に留まりましたが、約974名（団体含む）に及び方々にご協力いただくことができました。2006年度は、生産者団体の状況や商品に関する情報の収集・提供を充実させ、現地と国内の協力者を結び役割を強化していきます。またインターネットやカタログ等を通じた通信販売の促進にも努めていきます。リサイクル・ブック・エイドについては、さらに多くの方々にご参加いただけるよう、広報活動にも一層力を注いでいきます。

愛・地球博「地球市民村」

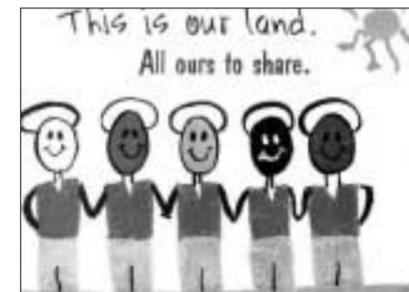
2005年3月末から9月末までの間、愛知県で開催された愛・地球博の「地球市民村」に、SVAパビリオン「アジアおはなしの家」を出展しました（7月の1ヵ月間）。ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの「竹の図書館」をタイから輸送して再現し、カンボジア、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタンの現地スタッフが読み聞かせ等を行いました。全国の協力者・ボランティアの皆さまにも運営を支えていただいた結果、会期中、19,000人もの方々に来場いただき、SVAの図書館活動を知っていただくことができました。



ミャンマーチームによる「おおきなかぶ」の読み聞かせ（愛・地球博にて）

絵本コンクール

昨年に続いて第2回絵本コンクール、「ひとつの地球・ひとつのいのち（2005年度テーマ）」を開催、選考を行なった結果、大賞の該当作はなかったものの、タイと日本から応募された作品2点が入賞を果たし、11月4日、東京グランドホテルにて表彰式が行われました。



絵本コンクール入賞作「ハンブティ・ダンブティのほんとうのお話」

広報活動

定期刊行物、緊急救援報告書、DM等の印刷物の発行に加えて、インターネットを利用した広報活動が大きく進展しました。4月に行われたホームページの大幅リニューアルによって、アクセス数が飛躍的に増加した他、「メール・ニュース」も毎月配信されています（配信数計626件、内メディア・企業438件）。また印刷物としては、会員・協力者対象のニュースレター「シャンティ」の他、国際ボランティアの寺の会員（2005年12月末現在167寺）に向けた会誌、「国際ボランティアの寺」第2号も発刊されました。2006年度は、引き続きIT媒体の活用を促進させていく他、対象にあわせた各種広報ツールの開発・製作も進め、よりきめ細かな広報展開を行っていきます。

海外支援活動

2005年度は、公的資金をはじめ事業指定収入の落ち込みが目立ちましたが、各募金の「ご提案書」を全面改訂し、特に民間資金に協力を仰ぐ準備をしました。2006年度は、継続的に事業指定収入の向上に取り組むと同時に、事業評価や人材育成、交流事業も実施していきます。



タイ事務所の海外研修を無事に終えて

企画調査・政策提言活動

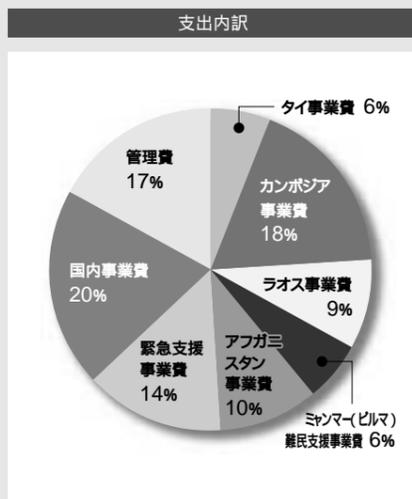
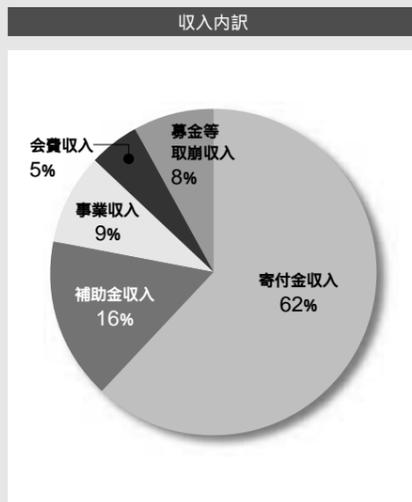
「教育協力NGOネットワーク（JNNE）」事務局として外務省、文部科学省、広島大学教育開発国際協力研究センター（CICE）の委託研修・調査事業を行い、教育協力政策の提言活動、「全ての子どもたちに教育を（EFA）」国内キャンペーンを展開しました。2006年度は、引き続きJNNE事務局を務める他、ユネスコアジア文化センター（ACCU）の委託研修を行っていきます。

会計報告

収支計算書 2005年1月1日～2005年12月31日

		(単位:円)
基本財産運用収入		108,812
会費収入		28,048,500
寄付金収入		343,190,094
事業収入		51,306,566
補助金収入		91,726,197
基金等預金取崩収入		47,767,369
当期収入合計(A)		562,147,538
前期繰越収支差額		9,666,867
収入合計(B)		571,814,405

		(単位:円)
事業費		469,634,083
一般海外事業費		
タイ事業費	35,460,181	
カンボジア事業費	102,379,820	
ラオス事業費	53,355,407	
ミャンマー(ビルマ)難民支援事業費	31,582,260	
アフガニスタン事業費	58,544,133	
緊急救援事業費	77,748,591	
国内事業費		
地球市民事業費	76,140,269	
クラフトエイド事業費	34,423,422	
管理費		93,295,439
人件費	61,789,936	
業務委託費	10,230,404	
施設費	8,031,264	
諸経費	13,243,835	
当期支出合計(C)		562,929,522
当期収支差額(A) - (C)		- 781,984
次期繰越収支差額(B) - (C)		8,884,883



2005年度に補助金、助成金、業務委託を受けた公的機関・団体

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)「ミャンマー(ビルマ)難民キャンプにおける図書館活動事業 / ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ」
 外務省「日本NGO支援無償資金協力 / 貧困地域における幼児教育改善事業(タイ)」
 国際協力機構(JICA)「図書館活動を通じた初等教育の質の改善事業(カンボジア)」
 国際協力機構(JICA)「公共図書館支援を通じた図書・読書活動普及事業(ラオス)」

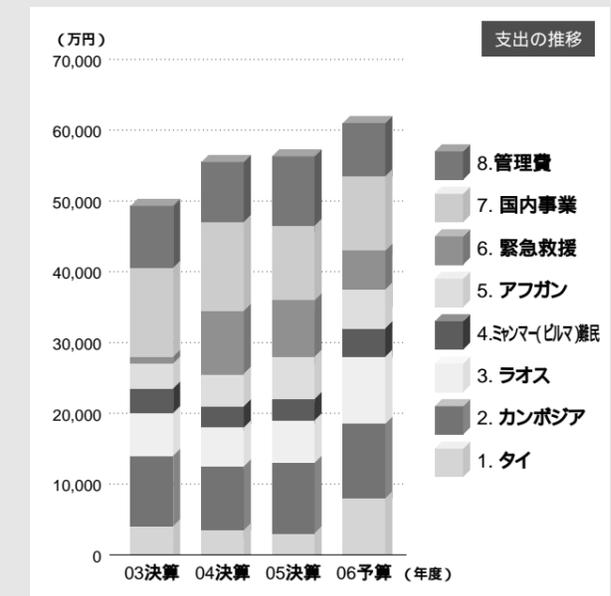
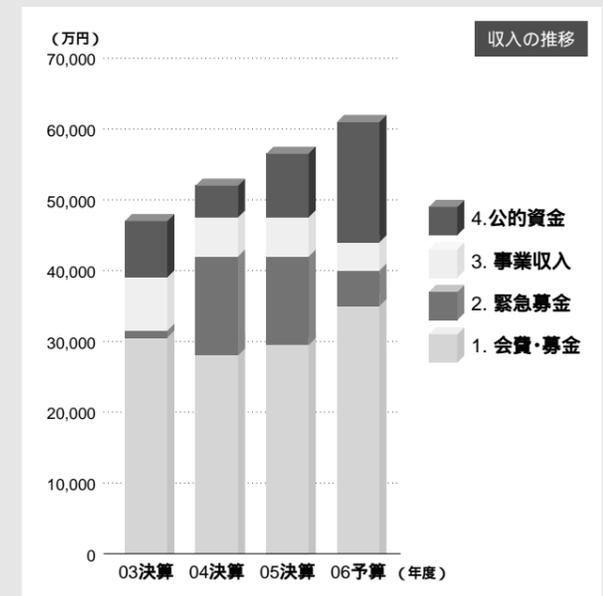
収入と支出の推移

(1) 収入の内訳 (単位:万円)

	03決算	04決算	05決算	06予算	構成%
1. 会費・一般事業募金	30,754	28,309	29,624	35,021	57.4%
2. 緊急救援募金	720	13,634	12,278	5,073	8.3%
3. 公益事業関連収入等	7,208	5,752	5,141	4,550	7.5%
4. 公的資金	7,970	4,618	9,172	16,356	26.8%
合計	46,652	52,313	56,215	61,000	100.0%

(2) 支出の内訳 (単位:万円)

	03決算	04決算	05決算	06予算	構成%
1. タイ事業費	4,553	3,962	3,546	7,777	12.7%
2. カンボジア事業費	9,637	8,587	10,238	10,569	17.3%
3. ラオス事業費	5,706	5,468	5,336	9,585	15.7%
4. ミャンマー(ビルマ)難民事業費	3,411	3,101	3,158	3,590	5.9%
5. アフガニスタン事業費	3,681	4,091	5,854	5,541	9.1%
6. 緊急救援事業費	994	9,132	7,775	5,062	8.3%
7. 国内事業費	12,409	12,701	11,056	11,812	19.4%
8. 管理費	8,593	8,139	9,330	7,064	11.6%
合計	48,984	55,181	56,293	61,000	100.0%



貸借対照表 2005年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		流動資産	固定資産	資産合計
	流動資産	166,265,706	286,720,790	452,986,496
	現金預金	119,527,902	基本金預金 50,000,000	
	売掛金	1,107,875	基本準備金預金 111,129,902	
	未収金	24,243,125	基金等預金他 125,590,888	
	前払金	9,144,330		
	貯蔵品(手工芸品)	11,303,683		
	その他の流動資産	938,791		
	固定資産		286,720,790	
	流動資産	166,265,706		
	固定資産		286,720,790	
	資産合計	452,986,496		

(単位:円)

負債の部		流動負債	正味財産の部
	流動負債	157,380,824	正味財産 295,605,672
	未払金	18,648,155	負債及び正味財産合計 452,986,496
	前受金	121,047,092	
	預り金	17,436,577	
	未払法人税等	70,000	
	未払消費税等	179,000	
	負債合計	157,380,824	
	流動負債	157,380,824	
	正味財産		295,605,672
	負債及び正味財産合計		452,986,496

社団法人シャント国際ボランティア会は、公益法人会計の基準に準拠した計算書類を作成し、当会監事及び新日本監査法人による監査を受けております。

資料編

組織・ネットワーク一覧

会員 (2005年12月31日現在、()は2004年度)

会員合計数	2,372名 (2,309名)				
社員会員	365名 (366名)	賛助会員	2,006名 (1,942名)	名誉会員	1名 (1名)
社員個人会員	303名 (305名)	賛助個人会員	1,677名 (1,630名)		
社員団体会員	62名 (61名)	賛助団体会員	197名 (198名)		
		賛助学生会員	92名 (80名)		
		賛助維持個人会員	24名 (20名)		
		賛助維持団体会員	16名 (14名)		

役員 (2006年4月1日現在)

理事(会長)	松永然道 (曹洞宗大本山永平寺副監院兼国際部長、静岡県・宗徳院住職)	理事 繁岡哲哉 (曹洞宗栃木県国際ボランティア会事務局長)
理事(副会長)	足立房夫 (社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長)	理事 茅野俊幸 (SVA事務局長)
理事(副会長)	我妻耕道 (宮城県・江巖寺住職)	理事 萩野頼子 (埼玉県・能仁寺寺族)
理事(専務理事)	秦 辰也 (シーカー・アジア財団理事)	理事 旗本宏昌 (東京都・泰宗寺住職)
理事(常務理事)	三部義道 (山形県・宿用院住職)	理事 早坂文明 (宮城県・徳本寺住職)
理事(常務理事)	若林恭英 (長野県・安楽寺住職)	理事 松尾純代 (大阪マイベンライ運営委員)
理事(常務理事)	神津佳予子 (有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長)	理事 八木沢克昌 (SVAカンボジア事務所長兼タイ事務所長)
理事	赤石和則 (拓殖大学国際開発学部教授)	理事 渡津法晃 (愛知県・龍洞院住職)
理事	上原泰男 (東京災害ボランティアネットワーク事務局長)	監事 大野恭史 (学校法人真福学園理事長)
理事	小野田全宏 (特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会常務理事)	監事 白石 孝 (自治労荒川区職労書記長)
理事	倉科利行 (長野県・全久院住職)	

代議員 (2006年4月1日現在)

荻野徹蔵(北海道)	黒田光泰(栃木県)	木村誠治(千葉県)	渡辺やす子(東京都)	片野晴友(三重県)	小豆澤道雄(島根県)
鳥谷部俊悦(青森県)	矢野正広(栃木県)	芦川正夫(東京都)	佐藤涼子(神奈川県)	前川 実(大阪府)	西村信恵(広島県)
谷本俊昭(岩手県)	上原康央(群馬県)	後藤文雄(東京都)	丸山素香(長野県)	富田基房(大阪府)	未益俊二(山口県)
赤塚俊治(宮城県)	青木利元(埼玉県)	坂本観晃(東京都)	高橋敬雄(新潟県)	SVA京都寺院の会(京都府)	井上幸一(愛媛県)
伊串泰純(宮城県)	根岸セツ子(埼玉県)	野村修一(東京都)	渡邊真人(新潟県)	田中保三(兵庫県)	亀崎弘記(福岡県)
岡崎正利(宮城県)	鎌田恭子(茨城県)	町田宗鳳(東京都)	野村耕健(静岡県)	林 道子(兵庫県)	里見照子(福岡県)
金平祖隆(福島県)	田中治彦(茨城県)	安井清子(東京都)	笛岡賢司(静岡県)	村井雅清(兵庫県)	荒木正昭(熊本県)
西川一英(福島県)	木村 憲(千葉県)	渡辺恵司(東京都)	高田憲道(愛知県)	浅井眞澄(奈良県)	

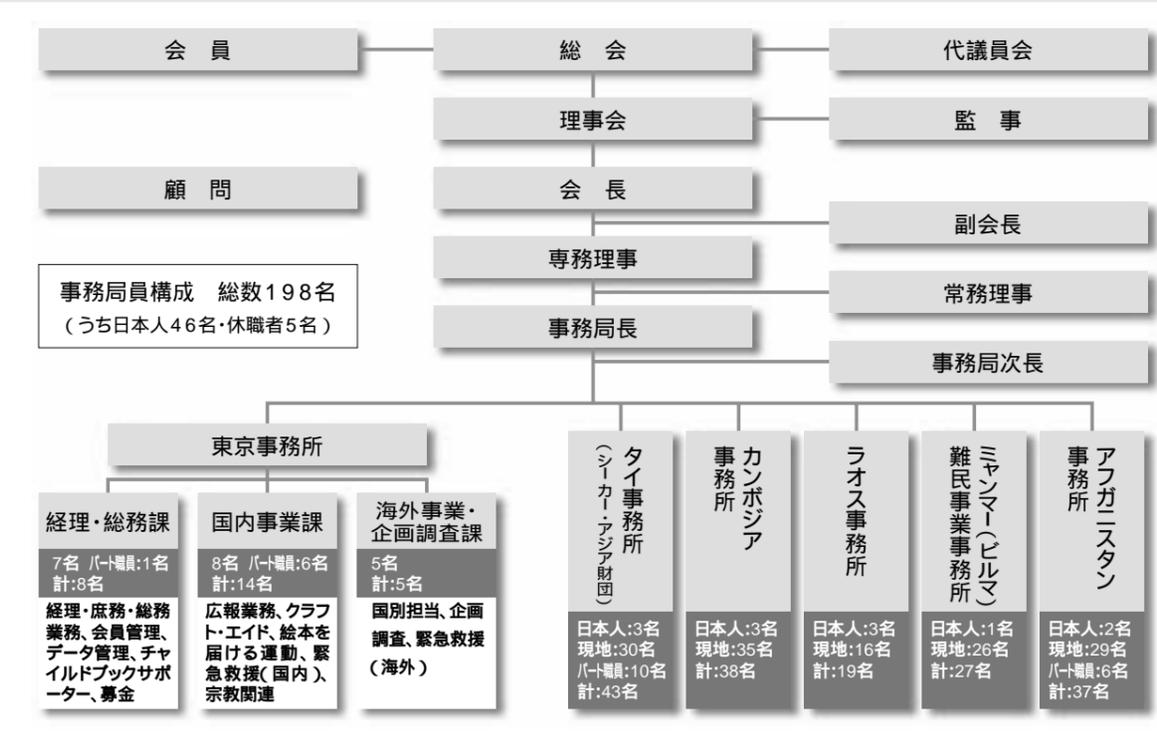
顧問 (2006年4月1日現在)

藤本幸邦 (長野県・SVA名誉会員、円福寺東堂、円福友の会会長)
川原英照 (熊本県・蓮華院誕生寺貫主、特定非営利活動法人 れんげ国際ボランティア会会長)
松野宗純 (福井県・地藏院東堂、日本PHP友の会名誉会長)
荒巻 裕 (近畿大学副学長・文芸学部長)
阿部豊淳 (宮城県・光寿院住職)

SVA 国際ボランティア親善大使 (2006年4月1日現在)

佐々木主浩 (元横浜ベイスターズ投手)

社団法人シャンティ国際ボランティア会組織図 (2006年4月1日現在)



参加ネットワーク一覧 (2006年4月1日現在、()内は略称、【 】内はSVAの役職)

国内	NGO 労働組合国際協働フォーラム【企画委員】	東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)【副代表】
	開発教育協会(DEAR)【団体会員】	日本アフガンNGOネットワーク(JANN)【団体会員】
	カンボジア市民フォーラム【団体会員】	日本UNHCR・NGOフォーラム【団体会員】
	教育協力NGOネットワーク(JNNE)【運営委員、事務局】	ビルマ市民フォーラム【団体会員】
	国際協力NGOセンター(JANIC)【理事】	仏教NGOネットワーク(BNN)【代表運営委員】
	ジャパン・プラットフォーム(JPF)【NGOユニット理事】	『南』の子ども支援NGO能力強化5ヶ年計画【委員】
	地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)【団体会員】	メコン・ウォッチ【理事】
	震災がつなぐネットワーク(震つな)【幹事】	
	全国社会福祉協議会 - 災害ボランティアコーディネーター研修プログラム開発委員会【検討委員】	
	中央共同募金会 - 災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議【検討委員】	

国外	Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)、在アフガニスタン【会員】	International NGO Education Meeting、在ラオス【会員】
	Asian South Pacific Bureau of Adult Education(ASPBAE)【理事】	International NGO Meeting、在ラオス【会員】
	Committee for Co-ordination of Services to DisplacedPersons in Thailand(CCSDPT) 難民支援事業調整委員会、在タイ【会員】	Japanese NGO Worker s Network in Cambodia (JNNC)、在カンボジア【世話人】
	Cooperation Committee for Cambodia(CCC)、在カンボジア【会員】	Japanese NGO Network Meeting(JANM)、在ラオス【会員】
	Coordinating Committee for Slum Development(CCSD)、在タイ【会員】	NGO Education Partnership(NEP)、在カンボジア【会員】
	Task Force for Children in Thailand (TFCT)、在タイ【会員】	

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(84年)	ソロプチミスト日本財団賞(85年)	外務大臣賞(88年)	毎日国際交流賞(94年)
東京都豊島区感謝状(95年)	防災担当大臣賞(04年)	兵庫県知事感謝状(05年)	